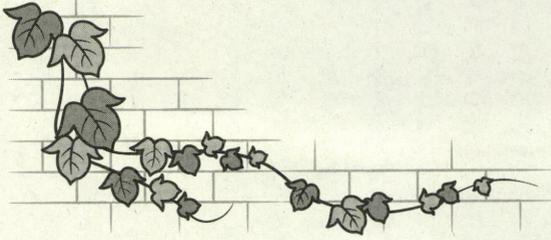


幼稚園の源流を求める旅
森有礼の第二次在米時代(10)

旅を終えて
— 森有礼が携えてきたもの —



国吉 栄

帰国後の森有礼

明治六年三月末にボストンを発った森有礼は、欧州を経て、同年七月二十三日に帰国した。帰国からわずかひと月あまりの九月一日、明六社の第一回会合が開かれた。その日、パリでは第一回国際東洋学者会議が開かれた。開会あいさつは、議長を務めた鮫島尚信であった。ちょうど同じ日に、日本には洋学者を中心とするわが国初の Society が発足し、西欧には日本研究を中心として集めた初の国際会議が発足したのである。それらをリードしたのが森であり鮫島であった。偶然の一致であろうか。

明六社を幼稚園史の立場から見ると、森のほかにも幼稚園に関係する者が多いことが注目される。東京女子師範学校の校長となる中村正直。森はハリスの信奉者オリファントに引き合わせるため、ロンドンの宿舎に中村を訪ねたことがある。太政官に幼稚園設立の伺いを出す文部大輔田中不二麿。森は最も信頼していた新島襄を案内者として彼に付けた。ハリスのコロニーまで行を共にし

た薩摩藩留學生畠山義成。畠山は文部省が学監として招聘したモルレーの教え子で、田中の信頼厚く、フィラデルフィア博覧会にも病をおして同行した。さらには幼稚園文献の輸入窓口となった明六社会計掛・瑞穂屋卯三郎。いずれも森と個人的な関係をもっていた人びとである。

帰国後の森のめざましい働きは知られている。しかし森には知られざる働きもあるのではないか。ハーバード大学に森書簡が一通所蔵されている。手紙は、京都に精神病院を設立し、東京でも設立準備中であると知らせていた。宛先のドロシア・ディックスはエリザベス・ピーボディーの若いころの友人で、全米の多くの州に州立精神病院を設立させ、患者の処遇改善のために先駆的な働きをした女性である。精神病院史について承知していないが、管見では森にふれているものはないようである。実際はどうであったのか。これまで森の姿をたどってきた印象では、彼のこれらの言葉が空言であったと考えることはできない。

明治八年七月、文部大輔田中不二麿は東京女子師範学

校に幼稚園を付設したい旨の伺いを太政官に提出した。

しかし伺いは却下されてしまう。これに対し、田中は即座に、懇願ともいうべき内容の再伺いを提出して設立許可を取り付けた。田中はなぜこれほどまでに幼稚園の設立を望み、また働きかけたのであろう。岩倉使節団に同行しての彼の体験をみても、彼が幼稚園の設立にそれほどまで切迫した欲求をもっていたようには思われない。

一方、森有礼は、学制が「当分之ヲ欠ク」とした音楽の教科を実現すべく在米中から準備していた。学齢未満児の教育についても同様である。多くの幼稚園関係者と交流し、関連文献も多数入手し、津田梅子に幼稚園教育を受けさせようと考えもした。森は明六社の一員である中村や田中に、幼児期の教育についても必ずや意見を述べたはずである。学制は田中の外遊中に公布された。各国を意欲的に視察し、わが国の教育制度の基礎作り力を振るおうと意気込んでいた田中には、納得しがたいものがあつたであろう。彼は、まだ実現されていない（森が望んでいた）女子教育や幼児教育に力を入れる。

私はワシントンの議会図書館で、帰国直前の森がフィラデルフィアに開設されたばかりの米國百年期博覽會事務局を訪れて、博覽會の契約書や議案書を取り調べ、わが國は全力を挙げてこれに参加する、と約束した新聞記事を読んだ。明治九年、準備万端整えた田中は同博覽會参加のため再び米國に向かった。途上、セントルイスに立ち寄った田中は、同市の教育長ハリスを訪問した。ボストン晚餐会でエマーソンが「セントルイスのハリスに相談せよ」と發した言葉は、今度は森から田中に發せられたのである。田中の博覽會報告にはハリスとの面談の様子が詳しく報告され、その部分を関信三が「幼稚園創立法」に採録した。田中が幼稚園についての認識を新たにしたフィラデルフィア博覽會も、その途上セントルイスにハリスを訪ねたことも、すべて森有礼の道であつた。

帰國した森は、本務の傍ら、明六社、図書館、商法講習所、精神病院と、あらゆる方面に光をもたらすために働いていた。幼稚園もその一つだったのでないか。

森の盟友鮫島は、伝統と格式を誇る欧州でわが國の尊

厳を守るために懸命に働き、激務がたたつて、明治十三年、三十五歳の若さでパリで客死する。当時駐英公使としてロンドンにいた森はパリに駆けつけ、最後の数日を彼に付き添つた。葬儀の席で、森は鮫島に「氣高き働き人よ」と呼びかけ、「You know me well!」と結んだ。

明治十八年十二月、太政官制にかわつて内閣制が発足した。長く外務畑を歩んできた森は、内閣総理大臣伊藤博文のもとで初代文部大臣に就任する。彼は多くの中傷を受けながらわが國の教育制度の基礎を作つたのち、伊勢神宮で不敬を働いたとの風評をたてられ、明治二十二年二月、大日本帝國憲法發布の日の朝、祝典におもむく準備のさなかに国粹主義者に刺殺された。四十三歳であつた。謀殺者は賞賛され、森は冷笑された。森は駐米時代、ボストンの友人キンズレーへの手紙に、自分は帰國したら *stranger* とみなされるだろうと書いている。

森の予言は正しかつた。

森有礼は、今日なお多くの分野で埋もれたまま、真価を問おうとされていない。

あとがき

二〇〇五年四月、私はできたての『関信三と近代日本の黎明』をもって、古写真収集家の石黒敬章氏をお訪ねした。氏が所蔵される森有礼旧蔵アルバムを拝見するためである。久しく見せていただきたいと願っていたが、関信三の本ができたらお願いしようとしていた。

氏は明治のおもしろ写真が飾られた応接間で、惜しげもなくアルバムを見せてくださった。ずっしりとした革表紙の古いアルバムが五冊。緊張しながら頁を繰る傍らで、氏は軽やかに森にかかわるさまざまな話をしてくださった。おまけに、犬塚先生を紹介してあげましょうか、などとおっしゃるのである。犬塚孝明先生は私自身多くの著作を通してお教えをいただいていた著名な森有礼研究者で、『新修森有礼全集』の編集者のお一人でもある。私は恐れをなし、ありがたいお話を辞退申し上げた。それから四年後、私はたまたま同全集がもう一卷出る予定であることを知った。全集はすでに完了していると思いついていた私は大変驚いた。手元に、全集に収められていない資料がかなり集まっていたからである。私はすぐに石黒氏にご連絡し、犬塚先生をご紹介くださるよ

うお願いした。その結果、資料はすべて全集に収録され、解題も私が担当することになった。幼稚園史というマイナーな分野の研究が、ささやかながらも森研究に貢献できることを心からうれしく思った。

森有礼と幼稚園との関係については、森が非業の死を遂げてから十年後に、森の秘書官であった木村匡によって明記されたが、その記述が注目されることはなかった。それから八十年を経て、阿波根直誠氏がシユタイガー宛森書簡の発見を報告され、さらにシユタイガー研究を発表されたことよって、森と幼稚園との関係に初めて関心が向けられた。その後、大戸美也子氏が森と幼稚園とのかわりを示すクラウス書簡を発見されたことは、本連載第六回で述べたところである。

以下の一覧に本稿に直接関係する資料・文献のうち、本文内で所蔵等を記すことができなかったものを掲げた。森有礼に関する新出資料の全容と詳細については、次の書を参照していただければ幸いである（大久保利謙監修 上沼八郎・犬塚孝明共編『新修森有礼全集』別巻四 文泉堂書店 二〇一一年秋刊行予定）。

連載してくださった『幼児の教育』誌に感謝します。

（彰栄保育福祉専門学校・白百合女子大学非常勤講師）

関係文献・資料一覽〔連載回〕(ページ数)

〔和文〕

- 青木薫「ウィリアム・T・ハリスの教育思想と教育行政Ⅲ—コンコード夏期哲学学校における活動を中心に—」『兵庫教育大学研究紀要』第6巻 昭和60年度 【7-41】
- 阿波根直誠 ワーレン・パットン「エルンスト・スタイガー宛森有礼書簡の発掘とその教育史的意義」『琉球大学教育学部紀要』通号26 1983 【9-45】 【00-40】
- 阿波根直誠「明治初期における外国教育受容に関する一考察—E.シユeta イガーと幼児教育に関連して」『琉球大学教育学部紀要』通号32 1988 【00-40】
- 生田澄江「舞踏への勧誘 日本最初の女子留学生永井繁子の生涯」文芸社 2003 【9-47】
- 犬塚孝明「翻刻 杉浦弘藏ノート」『鹿児島県立短期大学地域研究所』第15号(1986) 第18号(1989) 【4-50】
- 大戸美也子「幼稚園導入経緯の研究—森有礼の幼稚園理解—」日本教育学会第51回大会発表(当日配布資料含む) 1992 【6-44】
- 国吉栄「明治初期の保育の実践と研究」日本保育学会編「戦後の子ども の生活と保育」相川書房 2009 【9-46】
- 鈴木淳 マクウェイ山田久仁子「ハーバード燕京図書館の日本古典籍」八木書店 2008 【6-41】
- 戸沢行夫「明六社の人びと」築地書館 1991 【3-39】 【00-37】
- 中林隆明「森有礼旧蔵の洋書について(仮リスト)」『参考書誌研究』第38号 1990 【9-45】
- 西村正守「畠山義成洋行日記(杉浦弘藏西洋遊学日記)」『参考書誌研究』第15号 1977 【4-50】

〔欧文〕

- Brooks, C. Wolcott. Letters to E. W. Kinsley (Syracuse University) 【9-36】
- Douai, Adolf. *Autobiography of Dr. Adolf Douai*. Rauner Special Collections Library, Dartmouth College) 【9-44】
- Fish, Hamilton. Letter to Arinori Mori. (The Papers of Hamilton Fish, no. 189, Manuscript Division, Library of Congress) 【8-43 ~ 44】
- International Congress of Orientalists* Reprint. Originally published 1873-1881). Edition Synapse, 1998 【00-57】
- Jones, Terry. "The Story of Kanaye Nagasawa." 『鹿児島県立短期大学地域研究所研究年報』第8号 1979 【5-29】
- Kinsley, E. W. *Mori Arinori*. (Special Collections and University Archives of W. E. B. Du Bois Library, University of Massachusetts) 【9-36】
- Marshall, Megan. *The Peabody Sisters*. Houghton Mifflin Company, 2005
- Mori, Arinori. Letters to E. W. Kinsley. (Syracuse University Library) 【9-36】
- Wilson, Leslie Perrin. "No Worthless Books : Elizabeth Peabody's Foreign Library, 1840-52." *The Papers of the Bibliographical Society of America* vol. 99, no.1, March 2005 【3-38】
- 〔定期刊行物・新聞〕
- Kindergarten Messenger*. May 1873-Dec. 1875 【9-44 ~ 47】
- Report of the Commissioner of Education*. Department of the Interior, Bureau of Education Washington, D. C. 1872 【9-45 ~ 46】 【9-41】
- 【9-46】
- New Haven Journal Courier*. 1872/11/01 【9-47】
- The Philadelphia Inquire* 1973/03/10 【9-32】